

第123回日本眼科学会総会 モーニングセミナー13

# ヨード製剤を学ぼう

日時： 2019年4月20日(土)  
7:45~8:45  
会場： 東京国際フォーラム  
第8会場  
(Dブロック1F ホールD1)

座長



## 下村 嘉一 先生

府中病院 / 近畿大学

ご略歴：

1977年 大阪大学医学部卒業  
1981年 ジョージア医大 講師  
1988年 大阪労災病院 眼科部長  
1993年 大阪大学 眼科講師  
1999年 近畿大学 眼科主任教授  
2018年 近畿大学 名誉教授  
2018年 社会医療法人生長会 眼科統括診療部 眼科統括部長

座長



## 秦野 寛 先生

ルミネはたの眼科

ご略歴：

1975年 横浜市立大学医学部卒業  
1983年 横浜市立大学医学部眼科講師  
1984年 UC San Francisco, Proctor Foundation 留学  
1991年 横浜市立大学医学部眼科助教授  
1997年 ルミネはたの眼科院長  
2009年 横浜市立大学医学部臨床教授

## 座長のことば

「ヨード製剤」は本邦では1960年代から半世紀にわたり使われ続けていますが、まだ知らないことが多い「消毒薬」です。「ヨード製剤を学ぼう」というテーマで過去2回にわたり、基礎を学び臨床での有用性を模索してきました。

2015年に世界保健総会で薬剤耐性(AMR)に関するグローバル・アクション・プランが採択され、我々は早急に「抗菌薬」の適正使用について再考しなくてはなりません。「抗菌薬」の対極にある「消毒薬」、とりわけ「ヨード製剤」は抗微生物スペクトルが広く、耐性化が起こりにくいという特徴を持っています。

3回目を迎える今回は、「ヨード製剤」の基礎について砂田先生に、周術期の「抗菌薬」および「ヨード製剤」の適正使用について子島先生にご講演いただきます。

先生方の日々の「困った！」が解決されれば幸いです。

演題

アcantアメーバの  
薬剤感受性測定  
—なぜ測定が難しいのか

砂田 淳子 先生  
大阪大学 臨床検査部

演題

耐性菌を考慮した  
周術期減菌化療法

子島 良平 先生  
宮田眼科病院

# ヨード製剤を 学ぼう

日時：2019年4月20日(土) 7:45~8:45

会場：東京国際フォーラム 第8会場  
(Dブロック1F ホールD1)

演題

## アカントアメーバの 薬剤感受性測定 —なぜ測定が難しいのか

演者 砂田 淳子 先生 大阪大学 臨床検査部

ご略歴： 1990年 大阪医療技術学園専門学校臨床検査技師科 卒業  
1990年 大阪大学医学部附属病院 臨床検査部  
2014年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程後期 修了  
2018年 大阪大学医学部附属病院医療技術部 主任臨床検査技師

アカントアメーバ角膜炎(AK)は発症するとアメーバのシストが各種治療薬に耐性を示すことにより極めて難治性となる。AKの治療は細菌感染症治療とは異なり個々の症例毎に薬剤感受性検査が行われることは極めて稀であり、一般的には検査を実施せずに経験的な治療が行われている。

アカントアメーバは世界中の様々な環境に生息する最も一般的な土壌アメーバであり、活発に運動し分裂・増殖する栄養型と耐乾燥性、耐熱性および耐薬品性等を示すシスト型の2形態を有する。栄養型は発育環境が悪化すると最小限の代謝活動となり、シスト化し休眠状態となる。成熟シストは2重壁を有し、様々な不適切な外部環境に抵抗性を示し、長期間生存可能である。シストは発育環境が好適になると再び栄養型に戻り活動を再開する。

このような性質を持つアカントアメーバに対して、薬剤感受性測定は細菌や真菌のような測定方法では正確に測定することはできない。そこで、アカントアメーバの薬剤感受性測定のか考え方について解説したい。

演題

## 耐性菌を考慮した 周術期減菌化療法

演者 子島 良平 先生 宮田眼科病院

ご略歴： 2001年 宮崎医科大学医学部 卒業  
2001年 医療法人明和会 宮田眼科病院  
2009年 医療法人明和会 宮田眼科病院 医局長  
2016年 医療法人明和会 宮田眼科病院 外来医長

内眼手術後の感染性眼内炎の発症はまれであるが、視機能に重篤な障害を及ぼす可能性のある合併症である。感染性眼内炎の発症には結膜嚢常在菌が関連していることから、現在では眼内炎予防のために抗菌点眼薬を用いた周術期減菌化療法が広く行われている。しかしながら近年、周術期の抗菌点眼薬の長期使用による耐性化が問題視されている。

眼科領域でも古くから使用されているヨード製剤は、広い抗微生物スペクトルを持ち、かつ耐性化を生じにくいという利点を持つ。従来は術前の眼瞼および結膜嚢の消毒に使用されていたが、ヨード製剤を術中に使用する方法が報告され、再び脚光を浴びている。

本講演では周術期減菌化療法について、抗菌点眼薬の長期使用による耐性化およびヨード製剤の使用法や注意点を考えてみたい。

